中央公民館だより

平成 28 年 12 月 1 日発行
三原市中央公民館
三原市円一町２丁目３番１号
TEL 0848-64-2137　FAX 64-0137

いざと言うときに備えて　消防訓練実施!!

去る 10 月 26 日（水）、中央公民館では、調理室からの出火を想定した消防訓練を実施しました。通報訓練、消火訓練、避難誘導訓練等を 17 名の職員で分担しました。

実施後は消防署員の講評を受け、全員が消火器操作を体験しました。また、今年度は、新たに発煙場所からの避難や救助袋での脱出の仕方も学びました。

訓練で体得したことがいざという時に活かせるように、日頃から備えたいと思います。

浮城まつり

11 月 5･6 日、浮城まつり　―みはらの武士に出会う―錦秋の祭典と題され開催されました。

5 日には、「みはら歴史館」がペアシティ三原西館 1 階にオープンしました。様々な催しが開催されにぎわいました。“小早川甲冑部隊練り歩き”と、港ステージで出会いました。

“石よりも固い意志”
三原城の石垣を実証研究

“自由人･夢中人･地域人“活動拝見⑨

三原市は、来年に「瀬戸内三原　築城４５０年事業」を控えています。そのことだけのためというわけではありませんが、郷土の歴史の不確かな部分を明らかにし、市民の皆様に“三原史”の実像を把握していただくために、日々地道に粘り強く、半ば胸をときめかせながら実証的な研究をライフワークとして続けている方がおられます。

福井万千さん、73 歳。広島県立歴史博物館、(財)広島県埋蔵文化財調査センターに勤務の後、三原市で長年文化財保護委員として活躍されました。現在は三原市歴史民俗資料館専門委員長として、三原城の石垣の拓本を取ることにより城の成り立ちを検証し、築城技術や築造の意義等に迫る研究をしておられます。

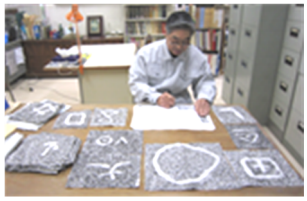
拓本の採取は、堀に囲まれた場所であり、刻印（石工が石垣の石に刻んだ印･文様）が 60 種以上、約 600 箇所にも点在するが故、一朝一夕にできるものではありません。或るときは、胴長靴をはいてぬかるんだ堀の中を腰まで浸かり、また或るときは、脚立に登って半ば宙吊り状態で石垣に張り付いての作業が続きます。

福井さんは、これまでに考古学をベースとし、公私ともに様々な歴史研究を継続してこられましたが、それに関わるストレスは一切感じなかったとのこと。根っからの調査研究好きであり、謎とされていた史実が解明されたときの喜びは、この上ないもののようです。

当分の間は、石垣の拓本の山に囲まれた根気の要る生活が続くようですが、やがて調査された拓本が日の目を見る日が必ず来ると信じます。三原城の意外な実相が浮かび上がることになるかもしれませんよ。

乞うご期待!!

石垣の刻印の採拓



拓本の整理

12 月の体験講座

講座名	開催日時	対象	参加費	持参物	定員	申込期間
パネトーネと クリスマス料理	12 月 8 日(木) 10:00~13:00	大人	1、100 円	エプロン・三角巾 お手拭タオル ふきん	20 名	12 月 1 日～ 12 月 7 日

体験講座へのお誘い（上記『12 月の体験講座』参照）

「パネトーネとクリスマス料理」＝12 月 8 日（木）10 時～13 時

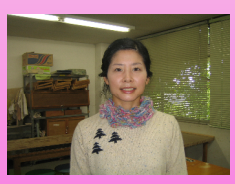
イタリアの伝統的な菓子パンの一つであるパネトーネの作り方を学びます。パネトーネ酵母はゆるやかに発酵することで、天然の保存料と化し常温で 3 ヶ月は保存が出来ます。ドライフルーツなども混ぜ込んでクリスマスにリッチな一品です。クリスマスの料理(チキンの料理・プチパン等)も合わせて学びます。メインの一品を学んでご家庭での楽しいクリスマスの演出を企ててはいかがでしょうか。

人形劇創造講座卒業劇団による公演報告 in 三原市立三原小学校

昨年度の主催講座「人形劇創造講座」で立ち上がった人形劇団【にゃーご】が 11 月 17 日に三原市立三原小学校放課後子ども教室にて出前公演しました。【にゃーご】の公演は、講座の最後の発表会以来でしたので、練習を重ね、張り切って公演されました。子ども達は、最初はしゃいでけっこう賑やかにしていましたが、よく知っている絵本が題材になっていたので、始まると人形の表現に食い入るように見入っていました。あれはスリッパを利用して人形にしているんかな？とか、興味津々いろんな質問も飛び交いました。大きいねこが出た瞬間、「わーびっくりしたー」と、指導員の先生も会場一同が一体感に包まれました。そうそう、この感じ！お芝居を通じて気持ちが一つになったと感じました。観た後、「ほんとはあのねこは、ねずみを食べるつもりじゃったよね」「自分の子どもに桃をくれたから食べられなくなったんよね」と話し合う様子もあり、有意義でした。にゃーご！

編集後記

先日「染めて紡いで編みましょう」という体験講座をおこないました。羊毛を草木で染め、美しい色をめでながら、紡いでいると、忘れていた時間の過ごし方がよみがえってきました。まったりと流れる時間は、心を癒してくれます。羊毛の“もふもふ”した感触は、あったかくなります。自然の染め(たまねぎ・マリーゴールド・栗)は、色を停めるのもミョウバンや酢を使う為、環境にもやさしくて、衣食住と暮らしの密接な関係性をあらためて感じました。



お問い合わせ・ご相談は、三原市中央公民館(TEL0848-64-2137　FAX64-0137)　生涯学習相談員　中山・村上まで